

## 水稲種子の温湯浸漬処理による発芽率の品種間差

宮城県古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

近年、宮城県では水稲種子の種子消毒法として、温湯浸漬法が普及定着しているが、品種間により処理方法の違いが、発芽率へ影響があると報告されている（普及に移す技術第84号）。

平成21年から平成24年に採用された「げんきまる」、「つや姫」、「東北194号」、「東北糯199号」の4奨励品種における栽培普及のため、発芽特性と温湯浸漬による影響を明らかにしたので、参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) 「げんきまる」の発芽特性は「ササニシキ」と同程度に発芽しやすく（図1左）、温湯浸漬処理による影響は認められなかった（図2左）。
- 2) 「つや姫」と「東北194号」の発芽特性は「ひとめぼれ」と同程度で（図1左）、温湯浸漬処理による影響は認められなかった（図2左）。
- 3) 「東北糯199号」の発芽特性は「みやこがねもち」と同程度で（図1右）、温湯浸漬60℃10分処理は、「みやこがねもち」と同程度で発芽率90%を下回る危険性が高いので、種子予措は「みやこがねもち」に準じて実施する。（図2右）。

### 3 利活用の留意点

- 1) 「げんきまる（東北189号）」と「つや姫」の品種特性は第85号普及技術、「東北194号」と「東北糯199号」は第88号普及技術を参照のこと。

### 4 背景となった主要な試験研究

#### 1) 研究課題名及び研究期間

主要農作物高位安定生産要因解析事業（平成25年度）

稲作生育診断事業（平成25年度）

#### 3) 発表論文等

##### a 関係する普及に移す技術

a) 温湯浸漬における発芽率の品種間差および備蓄条件による発芽率への影響（第84号参考資料）

b) 水稲割れ粃の発芽に対する種子消毒（薬剤処理、温湯処理）の影響（第79号参考資料）

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

2) 参考データ

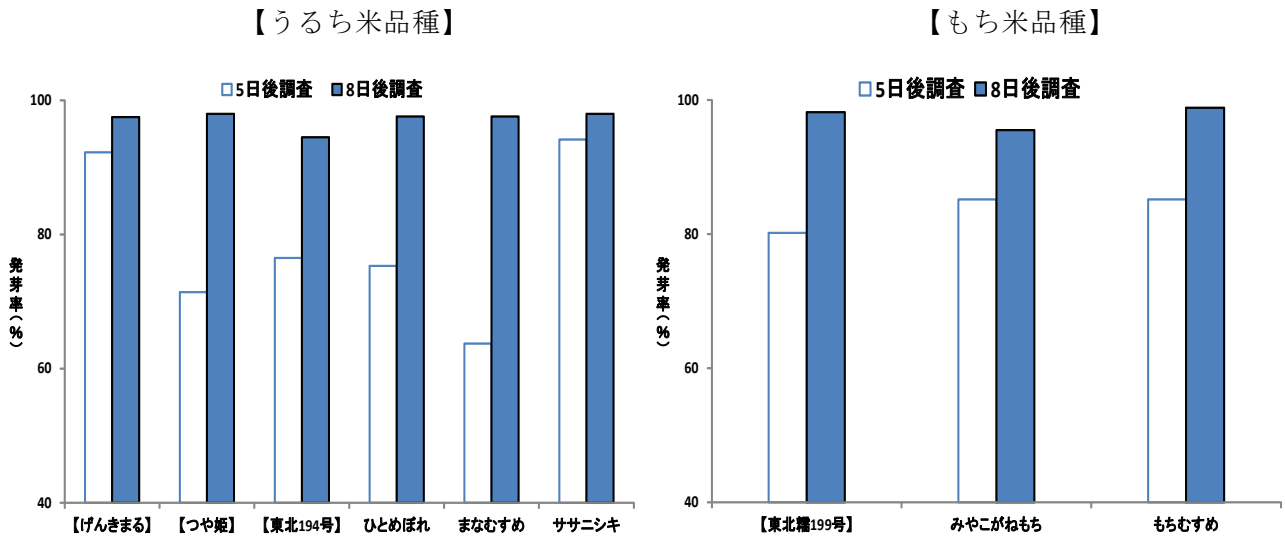


図1 品種別の発芽特性

注) 平成24年産の場内採取種子の無処理粳を使用し、4月下旬～5月下旬実施

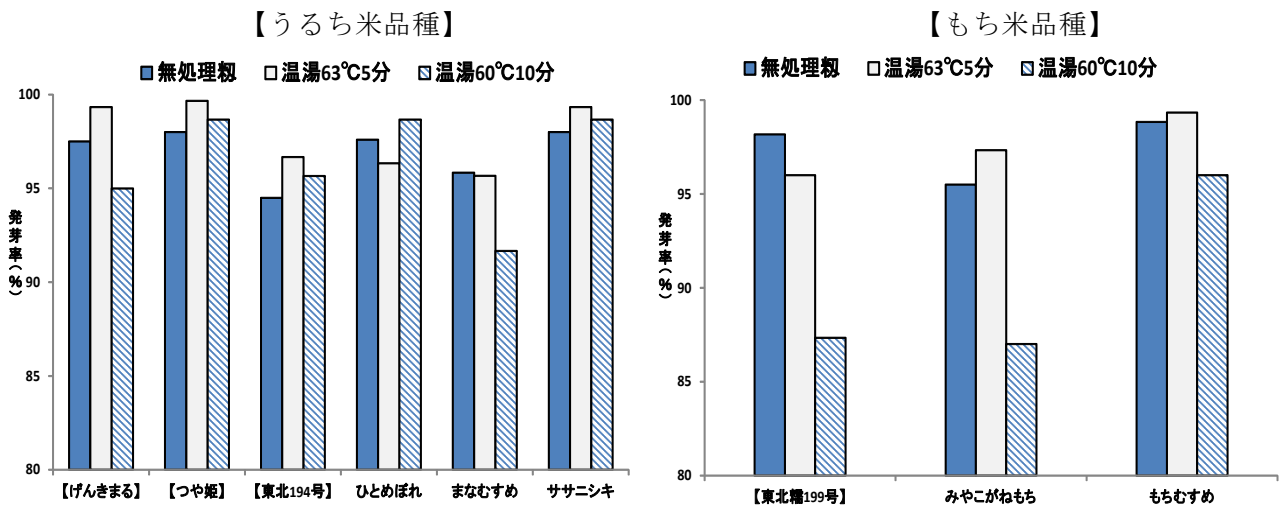


図2 温湯浸漬処理後の発芽率

注1) 温湯浸漬方法は、温湯消毒機（T社 YS-200L）を用いて、温湯63°C5分間と温湯60°C10分間処理後、冷水で流水後脱水乾燥した

2) 平成24年産の場内採取種子を使用し、4月下旬～5月下旬実施